

●特集● 消防団

消防団は地域の皆さんの 尊い生命と財産を守ります

皆さんは消防団を「存じですか。市には「常備消防」と呼ばれる消防署（上奥富、富士見、広瀬、水野）がありますが、このほか「非常備消防」として各地域を守るために消防団が設置され、日々活躍しています。皆さんも、家の近くに消防小屋があったり、火災があればすぐ駆けつける、地区の行事などで警備をしている、そんな消防団員の姿を見かけたことがあるのではないのでしょうか。今回は、地域に密着した縁の下の力持ち、消防団を「紹介」します。



●消防団の活動

消防団の起源は、江戸時代の町火消といわれ、その後消防組、警防団と時代の移り変わりとともに名前を変えながらも「自分の町は自分で守る」郷土愛護の精神を基調として、火災や風水害などの災害時には地域に密着して住民の生命・財産を守ってきました。

狭山市でも昭和29年に市制が施行され、翌30年にはそれまで町、村単位であった団が狭山市消防団として編成されて以来、7個分団、団長以下300名を超える団員が、消防署と地域を結ぶパイプ役と地域の防災リーダーとなり、各種の災害に即時に対応するため、地域の奉仕者として、日ごろから機械器具の点検、各種訓練や火災予防活動、啓発活動を行って、十分な成果が得られるよう努力を続けています。特に大規模災害発生時には被害も大きくなるのが予想され、消防署だけでは対応しきれない部分もあり、地域の情報にも詳しい消防団の活動が生かされてきます。団員の多くは農業、自営業など地域で就業し、各地区の災害などに即時対応できるよう努めています。し

平成8年の主な活動

- 火災出動（1月～12月）
建物、車両など47件・1千747人
- 演習・訓練
1/8：出初式167人
12/1：特別点検294人
- 広報・指導
1/21：防火訓練71人
1/22：文化財防火訓練（徳林寺）47人
8/31：防災訓練171人
- 特別警戒
8/6・7：七夕祭り警戒346人
12/29・31：歳末特別警戒744人
各地区行事警戒508人

これらの活動のほか、各分団ごとに定期訓練を行い技能の熟達に努めるとともに、災害を未然に防ぐために気象注意報・警報発令時に警戒を実施し、公共の安全と福祉の増進を図っています。



●消防団と地域の連携

市では、「震度5弱」以上の地震を目安として、地域における消防団員の部隊運用計画を定め、災害発生時には火災の消火、延焼防止、傷病者の救助、避難誘導などを行うほか、それらに関する情報を収集し、連絡にあたることになっています。このように、団員は大災害時における地域の防災リーダーとして重要な役割を担っています。

一昨年一月に発生した阪神・淡路大震災でも、顔見知りの消防団の呼びかけに地域の住民が集まり、効果的な消火作業や救助活動ができた事例や、消防団員の指示により住民が学校のプールからバケツリレーで消火活動を行った例などが報告され、



狭山市消防団長 内海 誠仁

私が昭和36年に入団した当時は、今ほど家が多くなかった反面、通信設備も発達していなかったため、火災現場に行くのに苦労したこともありましたが、火災はこちらの都合には合わせてくれません。来客中や、子どもが熱を出しているとき、そして寝入りばなに起

こされたこともたびたびです。一刻を争うときですから、仕事中でも駆けつけ、署員に負けないよう消火にあたりました。ご存じのように火災は乾燥している冬場の、それも夜に多く、凍りつくような寒さのなか全身が濡れながら放水したこともありましたが、火災に限らず多くの経験をしましたが、消防団を続けてこられたのは、地域のひとと、そして何より家族の応援があったからこそで、地域に貢献できることを誇りに思っています。現在は消防力も強化され、消防署と

女性消防協力隊を編成

火災予防や災害時の的確な対応は、市民皆さんの協力があつてはじめて成し得るものです。建物火災の半数以上が住居からの失火であり、日ごろから火を扱う際の心構えとして、火災予防の知識をもつことが極めて重要なことであると考えています。また、高齢化社会がすすむなか、災害弱者でもあるお年寄りや身体の不自由な人びとへの対応、火災予防対策の施策をすすめるためにはなりません。

これらのことから、市では女性消防協力隊（仮称）を編成し、地域の自主防災組織のメンバーとして初期消火、避難誘導などの防災活動にあたるほか、情報連絡、救護などきめ細かな活動ができる組織をつくり、日常の防火活動のみならず、安全で暮らしやすい地域社会づくりをしていきたいと考えています。募集などの詳しいことは、広報さやま9月10日号でお知らせします。